

同窓会会報

昭和41年6月27日
 茨城県 東茨城郡
 内原郷内
 発行所
 蠶測学園同窓会
 印刷所
 野いばらキティムス社
 TEL(215)191

大沼淳氏(四期生)

農民教育協会理事に就任

卒業生の中から、農民教育協会理事を推挙したい意向は、既に数年前からあつたが、なかなかその機が熟さず今日に至つた。しかし二十周年記念事業の推進を機会に、母校の現状と将来を憂ふる卒業生の真情は、



〈大沼淳理事〉

農民教育協会の理事各位を強く動かす、特に山係理事長は同窓会の要望に終始あたゝかい理解と配慮を示され、本年三月末の理事会において、満場一致、大沼淳氏の理事就任が決定した。

この度、理事に就任された大沼氏は昭和二十四年三月、本学園を卒業して直ちに人事院に入り、人事院事務官として活躍され、三十三年二月には並木学園理事長遠藤政治郎氏に懇請されて同学園常務理事に就任、三五年からは理事長として、今日の文化女子大学、文化服装学院、服装関係の各種出版事業など、年間七十億円に及ぶ並木学園の経営を担当する最高責任者として活躍されている。のみならず、教育、財界、労働、保健などの公職も兼ねられ、主要な役職だけでも二十余に達する。その一部を挙げれば、学校法人並木学園理事長の外私立短期大学協会理事、日本文化パターンズ株式会社取締役社長、文部省私立学校共済組合運営審議会委員、株式会社市川製作所取締役社長、全国各種学校総連合会理事長、社団法人東京都各種学校協会会長、東京都私立学校審議会委員、文部省大学設置審議会審議委員、等々。その学識と経営の實力は新界ですこぶる高く評価され、教育界、財界ともに中心的な存在になつておられる。それだけに日常の業務は多量なためにおられるが、ほかならぬ母校発展のために、諸般の事情をまけてお力添え下さるよう再三懇請して農民教育協会の理事をお引受けいただいた。

ここに建学以来初の卒業生理事が実現することゝなつたが、とりわけ最前の大沼氏に就任いただいたことは、まことに嬉しい限りである。
 (写真は学園図書館前にて)

参考説明：学校法人並木学園が行う各事業部門(教育部門、収益部門)の文書、企画、財務、人事、厚生、保健、施設等の総合管理として法人本部を設けております。法人本部は総務部、経理部、秘書部、施設部の四部で組織され、各事業部門と絶えず連絡協力を保ち業務を進めております。この法人全体の組織機構を図示いたします。



検討されつつある

学園の将来計画案

二十周年記念事業の出発当初から、和田文雄同窓会副会長が委嘱されて学園の将来計画及び二十周年記念史だけは記念式典(昨秋十月十六日)当日までに開合せたいと、再三話合われたが、双方とも実現せず記念史は多数の予約をいただき、将来計画は昨秋の第七回同窓会大会の席上、督促を受けながらも、何れもやむなく現在に至つてまことに申し訳なく、偏にご容赦願いたい。

昨秋来、しばらく開催されなかつた二十周年記念事業委員会は、同窓会の強い要請によつてようやく四月九日に開催された。事業資金の応募中間報告(全国関係団体三十四万円、各県協進関係八十五万五千元、単協関係二十万三千元、通信教育卒業生関係十四万一千円、雑受金千七百円、合計百五十三万六千二百円。但し同窓会分は別表報告)がなされた後、今後の記念事業推進の方法が議題となり、特に、「鯉淵学園の将来計画(学園の青写真)」こそ急務であるとの結論となり、席上その検討小委員会に石橋幸雄教授(健康上の理由で近秀次教授代行)、飯尾利一協会総務部長、河合庸雄学園事務課

て」を提出、農林省関係者にその趣旨を説明し、四二年度の補助要請を行なわれた。その資料の中で「今後の補充計画」として次のように述べられておられる。

全般的に教育施設の補充を図らねばならないが、当面は特に専攻科の補充を図る計画である。

(1) 専攻科の補充計画

科学技術の進歩と社会経済の発展に際して、学園における農村指導者養成の機能を充実するため、差当り現在の二カ年過程の本科の上に一カ年の専攻科を設置しているが、一日も早くこれを次のように補充したい。

(1) 学習期間を二カ年とする。

(2) 近い将来の科別と定員は次の通りとする。

稲作科、園芸科、酪農科、農協科、生活科、各科それぞれ二〇名。

(2) 本科、特別選科、通信教育科については、それぞれの教育内容の充実を図る。

(3) 教職員の充実、全般的な教育能力の充実、特に通信教育科や専攻科の教育能力の充実を図るために次の程度の教職員を増員したい。

稲作関係(教授または助教一名、助手一名)、園芸関係(助教一名

たは助手一名)、酪農関係(助教一名または助手一名)、農業機械関係(助教または助手一名)、農協関係(助教または助手一名)、生活関係(助教または助手一名)、他に事務職員数名。

(4) 建物施設の補充、当面の建物施設計画は別紙の通りである(別紙は会報掲載省略)。

しかし、本案はその後、農林省でもさらに検討を求めており、先の二十周年記念事業委員会の「学園の将来計画検討小委員会」の案とも充分な連絡調整はなされていない模様であるので、今後さらに協会、学園、同窓会で意見を交換し、母校発展のための、立派なそして実現性のある「学園の将来計画」が一日も早く樹立されるよう関係者一同にお願いしたい。

(七頁から続く)

以上で総合計一、二五六、五四八円(記念史代工本費、〇〇〇円を含む)になります。応募者数は約千名

です。今後は、大よそ半数でありますので、今後とも会員の皆さんの絶大なご協力をお願い致します。

都道府県別の募金状況は次表の通りです。

大沼理事

母校訪問

昭和四十一年度

入学状況

この度、農民教育協会理事に就任された大沼淳氏（4期）は、前後のおびたしくつまつた日程にもかかわらず、私共のたつての要望に応えられて六月三日早朝から同日夕刻まで、学園諸施設を視察され、又学園長はじめ教職員、萩原同窓会々長、和田副会長、石井常任委員、磯田常任委員及び本部事務局とも親しく懇談された。学生総数一万五千、近代的設備を完備した文化服装学院と比較しないまでも、この種の教育機関や試験研究機関の発展に比べてもまことにみすばらしい母校の人的、物的内容をありのまゝ見ていたとい

た。十一時から約一時間、全学生に特別講義をお願いした。鯉淵学園時代の生活、小出藩二前学園長に深く教えられたこと、よき師、よき友に恵まれて巾広い勉強をしつかりやつたことが今日の原動力になつていること、人事院事務官から現在までの仕事の内容などに触れながら静かに話される先輩大沼理事の講義に、講堂を埋める全学生、それに私ども、終始胸を打たれるものを感じた。たしかに私ども卒業生にとつて、鯉淵学園は掛替えのない唯一の母校である。それは如何に弊屋であつても、望郷の念絶ち難い古里の我が家にも相通ずる心情がある。二十年の才月に教職員はめつきりと減り、創立当初から重要な役割を果たしていた畑作機械化農場や酪農実験場の二五ヘクタールは他に手放され、長い間恵まれぬ待遇に耐えて来た教職員の労苦をま君に心配はかけません。私で出来る限りの努力を致します。」と話される大沼理事に、一同明るい希望と勇気を与えられた。私どもも一致協力学園の教育に全力を尽すべき覚悟を新たに

した。教室、図書館、実験室、農場、男女学生寮、食堂等、主要な施設を一巡され、しばらく同窓会役員、教職員とくつろいだ話をかわされた後、夕刻六時近く帰京された。

例年、特にご協力いたゞいております学生募集は、お陰様で近年になり多数の応募者が得られ、厚くお礼申し上げます。なかにはせつかく皆さんのご推せんをいたゞきながら、お引受け出来なかつた例もありました

が、四五三名中より二〇〇名の入学者を定めましたので、事情お察しの上ご了承の程お願い致します。入学状況は次の通りですが、二年生を含めて総学生数三〇〇名を越し、教室での合同講義はマイクを用い、寮は原則として一部屋四人、食堂も大賑やかです。研究会、同好会等も俄然活気を呈しています。もつとも受入れ設備はなかなかそれに追付かず、人手も足らなくてフウフウしながらやっています。

| | | |
|---------------|---|------|
| ○ 出身校別 | 農村生活科 | 四五名 |
| | 普通高等学校 | 六八名 |
| | 農業 | |
| | (含普通高校農業課程) | 九二名 |
| ○ 実業 | | 八名 |
| ○ その他 | | 二名 |
| ○ 出身県の範囲 | 東京、大阪、福岡等五つの都府県を除き、北海道より鹿児島に至る全国道府県及び沖縄より入学した。特に茨城、福島、宮崎、岩手等の諸県からの入学者が多かつた。 | |
| 二 専攻科 | | |
| 1 志願者数並びに入学者数 | | 三名 |
| 2 入学者数 | | 二名 |
| 三 特別選科(茨城県委託) | | |
| 1 志願者数並びに入学者数 | | 二九名 |
| 2 入学者数 | | 二七名 |
| ○ 科別 | | |
| 1 志願者数 | | 四二二名 |
| 2 入学者数 | | 一七一名 |
| 1) 農業科 | | 八三名 |
| 2) 農業協同組合科 | | 四二名 |

着々と整備のすゝむ

酪農場

酪農場についての思い出はその時々卒業生諸兄姉によつていろいろであろうと思います。古きは乳牛舎と云われた時代から、南園場、生畜農場、更に現在の酪農場まで園場に作付けられた作物の数々や、乳牛の顔や頭数、建物の様子、器具機械の調子にいたるまで、その時々状態が皆さんの脳裏に残つておりました。それらのイメージが人それぞれに貯じて異なるように、今日まで、また将来も酪農場は変貌し発展し続けるであります。

幾度かの農地解放によつて周辺部の土地は切り取られ、また隣接して苦業を共にした当時の畑作機械化農場も学園の手を離れている今日では酪農場は南端の一角に孤立しているかに見えます。しかし、これが決して将来までも孤立にならないように一同日夜頑張つております。幸いにも昨年度より、その目指すところを中央競馬会当局にも認められ、学園設計による搾乳場並びに搾乳機械一式、育成兼分娩牛舎（二十頭収容産室二）一棟六十トン入サイロ一基

が助成事業により建設できました。本年度も引続き行なわれることになつておりますので、久米農場長を始め職員一同はもとより、学園各方面にも旧僚の意気込をもたせてくれております。

同掲いたします写真1は、搾乳場の全景（隣接して右方に見えるのはルースバーン）。写真2は搾乳場内

〈写真2〉



〈写真3〉



〈写真1〉

牛乳処理室の一部で、搾乳された牛乳はミルクオモータにて自動秤量の後パイプラインにてバルククーラーに運ばれて冷蔵される仕組になつております。また写真は、育成牛舎内スタンションに繋留された酪農場の次代を担う若い彼女達です。将来、必ずやたくさんのミルクと良い子供達を生産してくれる筈です。

更に酪農場の現況について補足いたしますと、成牛群三十四頭、育成牛群十八頭を保有し、これを飼育いたします飼料基地も牧草の八ヘクタール余をはじめ、デントコーン、青刈麦類などの良質の粗飼料を間断なく供給して、ビタミンがより多く香り高いミルクの大量生産を目指しております。



支部だより

北から 南から

福島県

三月五日・六日と福島市飯坂温泉(9)。付帯決議として事務局長は次期総会開催方部より選出する。次期総会は会津東山温泉。局長(7期)外一八名。

栃木県

総会経過報告に大自然のめぐりは春をよび、常陸野にもゆるくぬぎの新緑、あの広野に深く根ざす老松、それは私達が常に思い出す心の故里、鯉淵のイメージであります。今回同志相まみえて遠く学園から西村事務局長、ご多忙のところ秋田から馳せ参じて下さった佐々木次雄氏(3期)、県内からも万障繰合せてご出席下さった先輩、後輩諸兄、ともになつかしい学生時代に返り、思い出に夜を明かす機会をいたすことは、私達の生活に希望と勇気を与えてくれました。ご出席の皆さんに感謝すると共に欠席者には是非とも出席下さるようお願いいたします。

新緑、あの広野に深く根ざす老松、それは私達が常に思い出す心の故里、鯉淵のイメージであります。今回同志相まみえて遠く学園から西村事務局長、ご多忙のところ秋田から馳せ参じて下さった佐々木次雄氏(3期)、県内からも万障繰合せてご出席下さった先輩、後輩諸兄、ともになつかしい学生時代に返り、思い出に夜を明かす機会をいたすことは、私達の生活に希望と勇気を与えてくれました。ご出席の皆さんに感謝すると共に欠席者には是非とも出席下さるようお願いいたします。

かつまことに和やかな支部総会であった。

岐阜県

三月十八日岐阜市内で支部総会が開催されました。当日は幸いにも鞍田学園長が岐阜県普及員大会の講師として来岐されるのを機会に計画されました。鞍田先生には大変御多忙な日程をさいて御出席いただきまして、大先輩の中には始めておめにかかる人もあり、一層大いに感謝し意を強くした次第です。

出席者は十八名(写真)と大変盛況で、本部よりは砂田総務部長が派遣されました。総会では島本支部長提案の支部規約も決定したので、今後は支部運営も一層円滑になることと思われれます。新支部長には県庁の松永(三期・果樹専攻)さんが就任し活躍が期待されます。また、監事として二期の清水到喜朗さんが決まりました。最後に他県の出身者であり乍ら、日夜を分たず本県の農村生活改善に健闘されている二人の若い女性に拍手を贈るとともに後に続く者の出ることを望んで止まない。

出席者は十八名(写真)と大変盛況で、本部よりは砂田総務部長が派遣されました。総会では島本支部長提案の支部規約も決定したので、今後は支部運営も一層円滑になることと思われれます。新支部長には県庁の松永(三期・果樹専攻)さんが就任し活躍が期待されます。また、監事として二期の清水到喜朗さんが決まりました。最後に他県の出身者であり乍ら、日夜を分たず本県の農村生活改善に健闘されている二人の若い女性に拍手を贈るとともに後に続く者の出ることを望んで止まない。

兵庫県

雨をのせた温暖前線が北上したせいか、支部総会の開かれた十二月十

四日(昭和四〇年)の須磨の浜辺は意外に暖かい夜でした。年末のあわただしい時期にそれもせつちかな同窓会開催通知だったので出席者は僅か9名、それでも時がたち、夜が更けるにつれてとても楽しい集いになりました。

第一に報告したいのは鯉淵学園同窓会兵庫支部を正式に発足させたことです。この際正式などという言葉を使うのは気がひけるのですが、そうせざるを得ない雰囲気がかたしかにあつたのです。当夜あい集つた気の弱い仲間たちのせい一杯の母校を愛する精神の発露だと解釈いたさけたらどんなに嬉しいことでしょう。現在兵庫県住の同窓生は全部で三名ですが全員の賛成を心から期待しております。支部長・栗山要氏(1期)、事務局長・加藤整氏(10)以上、加藤定子さん(11)のお手紙の中から。

島根県

平素ご無沙汰ばかりで申し訳なく思っておりますが、遠方より学園の発展ふりを風の便りに聞きつゝ喜んでおります。さて去る三月五・六日、邑智郡粕洲町で支部同窓会を行ないました。地理的に山間部であつたことと、年慶末という時期的制約があ



〈福島県支部会〉



〈岐阜県支部会〉

つたためか、参加者は竹下盛雄氏（
9）外十名でしたが、久しぶりの会
合でもあり、終始なごやかなしかも
盛況であったと思っています。小生
も初参加で、大部分の人と初対面で
すが、すぐにもちとけてお互、十年
来の知己の如くで、やはり学園の卒
業生ならではの感を深く致しました。
加藤美保子さん（17）は二月中旬結
婚されて曾田夫人とられました。竹
下氏のご尽力によつて県支部の名簿
ができましたのでお送りします。
小生、農業自営で早くも一年半、
現在乳牛成牛三頭、仔牛三頭（昨年
入れた三頭が初産で全部乳を産みま
したので）飼つております。北海道
での実習生活が大いに役に立ってい
ることはいうまでもありません。ま
ずは取急ぎ近況ご報告まで。以上
金原栄保氏（18）のお手紙の中から。

デンマークだより

11期 吉川昭雄（茨城）

何時ものんびりして生活していた
ように食事をしていきます。そのせい
は、デンマークに来てまでも相変
らずのんびり自分のペースで生活し
ています。あまりあせつても如何と
もしようがありません。一時的には
デンマークの人々と共に仕事をして
も、私も日本人の体力ではどうも
長続きせず、仕事の方法も違ふし、
何しろ三二〇〇カロリー対六〇〇〇
カロリーの体力の差はしよせんどう
にもなりません。六〇〇〇カロリー
はオリンピック村の食事と同じカロ
リーですし、彼等はふだんこれだけ
の食事とつて生活しています。も
つともこのカロリーの大部分をしめ
ているのは豚脂（ラード）、バター
チーズ、砂糖です。一日当り一人分
の消費量はよくわかりませんが、米
五キログラムに対して砂糖も五〇キ
ログラム消費するという話ですので
砂糖によるカロリーのしめる割合は
相当に大きいのではないのでしょうか。

やつぱり参つたのは言葉（デンマ
ーク語）ですが、今では何とかパス
タクシー、汽車など自在に乗つてい
ます。乗られた方は大いに迷惑をし
ているのかも知れませんが、用事は
足りています。有難いことにどこへ
行つても親切にしてくれます（特
に外国人に対して）。しかし金銭関係
においては何れもなかなかレブチン
ですね。私の世話になつてある家の
奥さんなども、大売出しの新聞記事を
見て、少しでも安いと三〇一四〇キ
ロもなれた町々に自動車をとばし
ます。しかしかならず食事の時間ま
でには帰つて来て暖かい食事を作つて
くれます。

敬 具

（吉川昭雄氏は一九六四年秋から
六六年秋まで、約二ヶ年の予定でデ
ンマークに派遣され、デンマーク農
業や農村生活について研鑽を積んで
おられます。一同ご健闘を祈つてい